

平成30年度 「ふれあい地域懇談会」報告書

＜ 西鎌倉地域 ＞

日 時	平成30年7月12日（木） 午前10時～正午
場 所	腰越支所 多目的室
出 席 者	自治・町内会代表 8団体：9名 地域団体代表 6団体：7名 計16名 鎌倉市 8名
内 容	市長からの報告..... P. 1 「持続可能な都市『鎌倉』を目指して」 第 2 部 地域の懸案事項に関する報告..... P. 19 ① 地域バスについて ② 交通渋滞の解消について 第 3 部 本年度の地域の議題に関する懇談 P. 23 ① 平成32年度以降の腰越行政センターの利用について ② 高齢化する西鎌倉地区での交通手段について ③ 地域防犯について ④ 危険地域 ⑤ 喫煙の禁止条例について ⑥ 街づくりについて
付 録	当日配布資料..... P. 39

出席者名簿（敬称略）

【自治会・町内会等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	西鎌倉地区町内・自治会連合会	野間 公治 前垣 進	会長（司会）
2	西鎌倉住宅地自治会	森田 健	
3	鎌倉山町内会	田中 秀文	会長
4	新鎌倉山自治会	肥後 正一	会長
5	南鎌倉自治会	藤井 瑞子	会長
6	御所ヶ丘自治会	青山 あつ子	会長
7	手広町内会	内海 直和	会長
8	西鎌倉山自治会	宮川 総一郎	会長

【その他の団体等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	西鎌倉地区社会福祉協議会兼民生委員児童委員協議会第十地区	千代 美和子	
2	西鎌倉地区教育懇話会	村井 英子	
3	保護司	石井 和行	
4	西鎌倉いきいき体操教室	齊藤 勝	
5	親寿会	池田 隆明 佐々木 俊文	
6	福寿会	幸田 茂	

【鎌倉市】

	役 職	氏 名	備 考
1	鎌倉市長	松尾 崇	
2	共創計画部長	比留間 彰	
3	行政経営部長	齋藤 和徳	
4	防災安全部長	柿崎 雅之	
5	市民生活部次長	熊澤 隆士	
6	環境部長	石井 康則	
7	都市整備部長	樋田 浩一	
8	腰越支所長	曾根 健治	

第1部 市長からの報告

【全地域共通】

平成30年度ふれあい地域懇談会 第1部市長からの報告



持続可能な都市『鎌倉』を目指して

鎌倉市長 松尾 崇

Takashi Matsuo Mayor of Kamakura

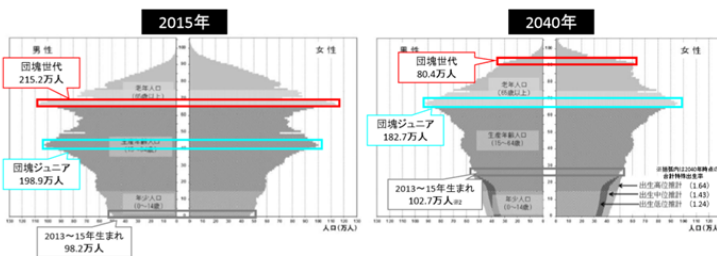
第32次 地方制度調査会

地方の行財政制度を検討する首相の諮問機関、第32次地方制度調査会が7月5日初会合を開いた。人口減の中、高齢化がピークを迎える2040年頃の自治体の姿を描き、必要な法整備を2年間かけて議論する。

安倍首相のコメント

「急速な少子高齢化、深刻な人口減少により歴史上、経験したことのない事態に直面する。具体的な解決策を幅広く検討いただきたい。」

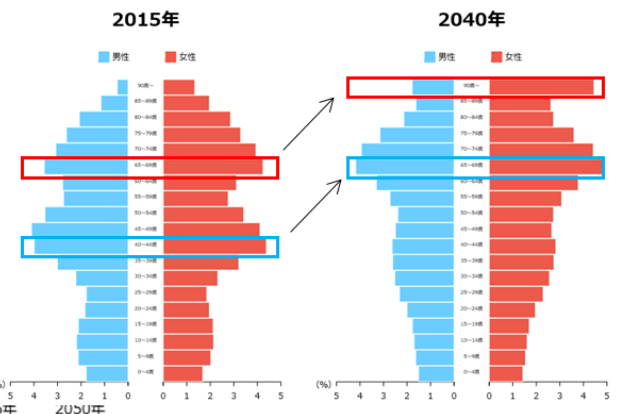
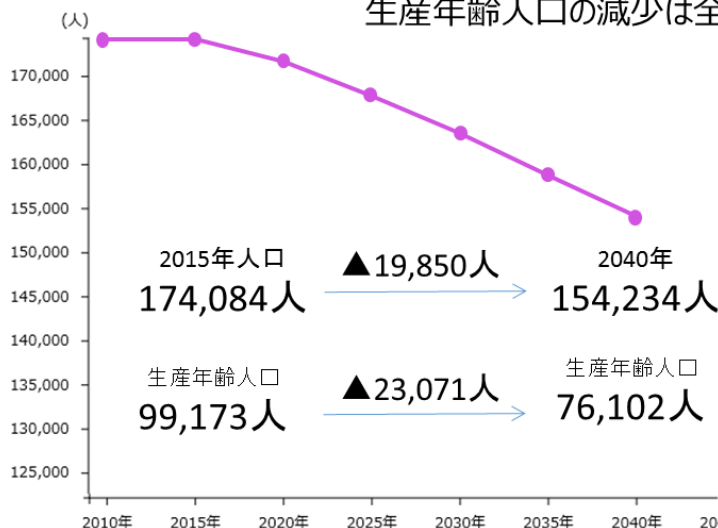
**15歳～64歳の働き手世代が
現在の7558万人から40年には5978万人と激減**



	出生数	2015年※1	2040年※1
団塊の世代 1947～49年生まれ	267.9万人 ～269.7万人	215.2万人 66～68歳	80.4万人 91～93歳
団塊ジュニア 1971～74年生まれ	200.1万人 ～209.2万人	198.9万人 41～44歳	182.7万人 66～69歳
【参考】 2013～15年生まれ	100.4万人 ～103.0万人	98.2万人 0～2歳	102.7万人※2 25～27歳

鎌倉市に目を向けると

人口は19,850人 (11.4%) 減少
生産年齢人口は、23,071人 (23.2%) 減少
生産年齢人口の減少は全国平均の20.9%よりも2.3%高い



鎌倉市が取り組むべき課題

急激な人口減少・少子高齢化の進行は、税収減・社会保障費の増につながる。この様な環境下において様々な課題にどう対応し、持続可能なまちづくりを進めるか。従来のシステムを根本から変えなくてはならない。

- 災害対策（地震・津波・異常気象など）
震度6弱以上の地震が30年以内に来る確立82%（横浜市）：政府地震調査委員会
- 一斉に老朽化する公共施設・インフラの維持管理
- 年間約2,000万人（入込観光客数）の観光客と慢性的な渋滞対策
- 高齢化進行が著しい住宅地の再生（安全安心・コミュニティ再生）

市民の暮らしを守る 「住みたい・住み続けたいまち」をつくる

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



稲村ガ崎の崖の崩落により
下水道管が破損

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



岩瀬隧道内の上部の一部が崩落

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



第一中学校への通学路脇の崖で落石が発生

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

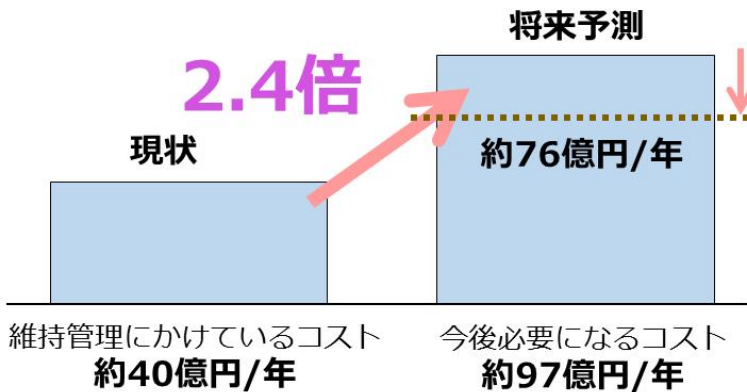
社会インフラの維持管理に必要となる経費は、**年間約97億円**。

現状の約40億円の**2.4倍**となる。

公共施設のように削減することができない。

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画

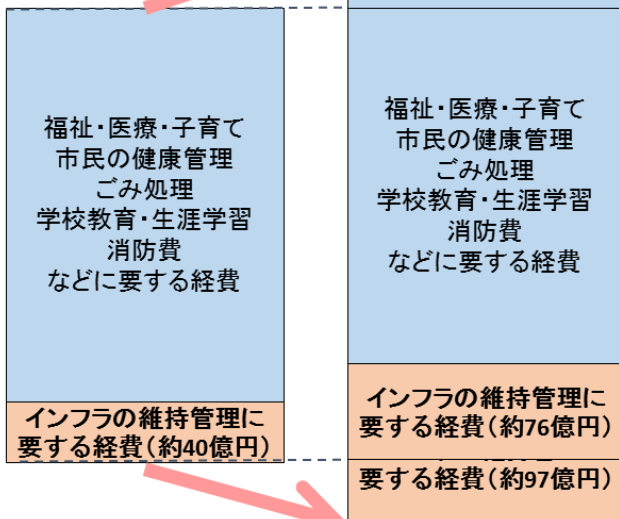
- ・ 管理水準の適正化
- ・ 予防保全型管理方式への転換
- ・ 民間の力を活用したコスト削減
- ・ 適正負担（受益者負担）の見直し
- ・ 災害時の事業継続の視点



鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

現 状

将来予測



社会保障費などの増加
(さらに人口減少による歳入減)



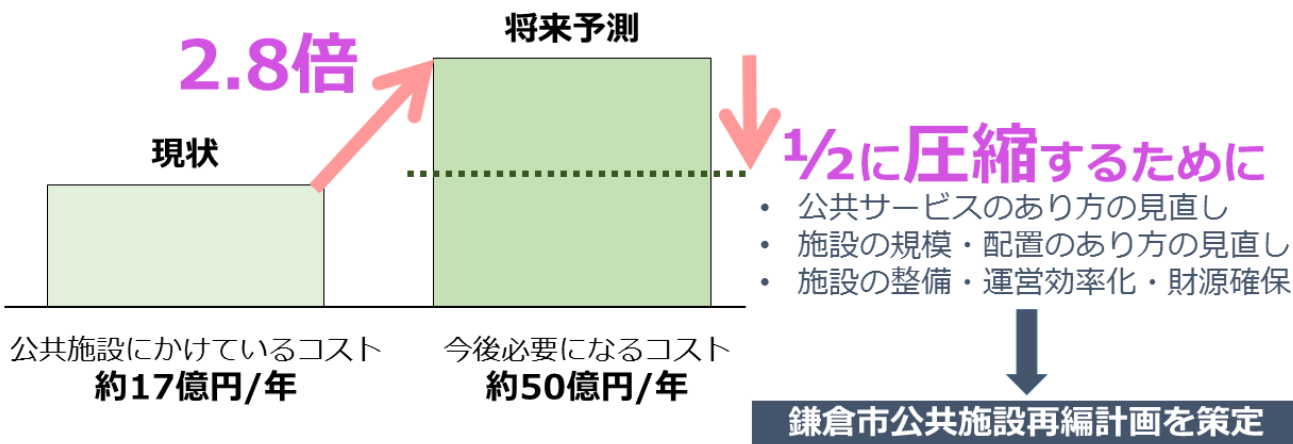
既存事業の見直し
公共施設の維持管理コストの削減



インフラの維持管理に要する経費の増加

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

老朽化が進む公共施設の維持管理に必要となる経費は、年間約50億円。現状の約17億円の2.8倍となる。



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

市民の生命を守る災害対策（市役所本庁舎の整備）

建築から約50年

建物・設備の老朽化が進行

災害への備え

最低限の耐震強度はあるものの
防災拠点としての機能強化が必要

スペース不足

執務室の分散により、業務効率
市民サービスが低下

市民参画で検討を重ねる（h28～）



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

◆ 建設コスト規模の比較（イメージ）

コストメリットが
最大の整備手法

現在地建替え

その他の主なコスト

現在地長寿命化

その他の主なコスト

移転

180億円は、必要な面積に近年の建設コストを乗じた数値
 3.6億円 庁舎のコンパクト化や民間活力の導入に積極的に取り組み
整備コストを圧縮（税の投入を極力減らす）

約194億円

（現在地と別敷地合算）

約207億円

（現在地と別敷地合算）

約180億円

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増
耐震改修による施工単価増

跡地の利活用による
さらなる効果

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前での便利な場所
市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



津波避難ビルとしても機能

鎌倉の価値を
高める
相乗効果



移転先

新しいまちづくりが進む場所
災害に強く、市民が生き生きと健康に暮らせるまちをつくる

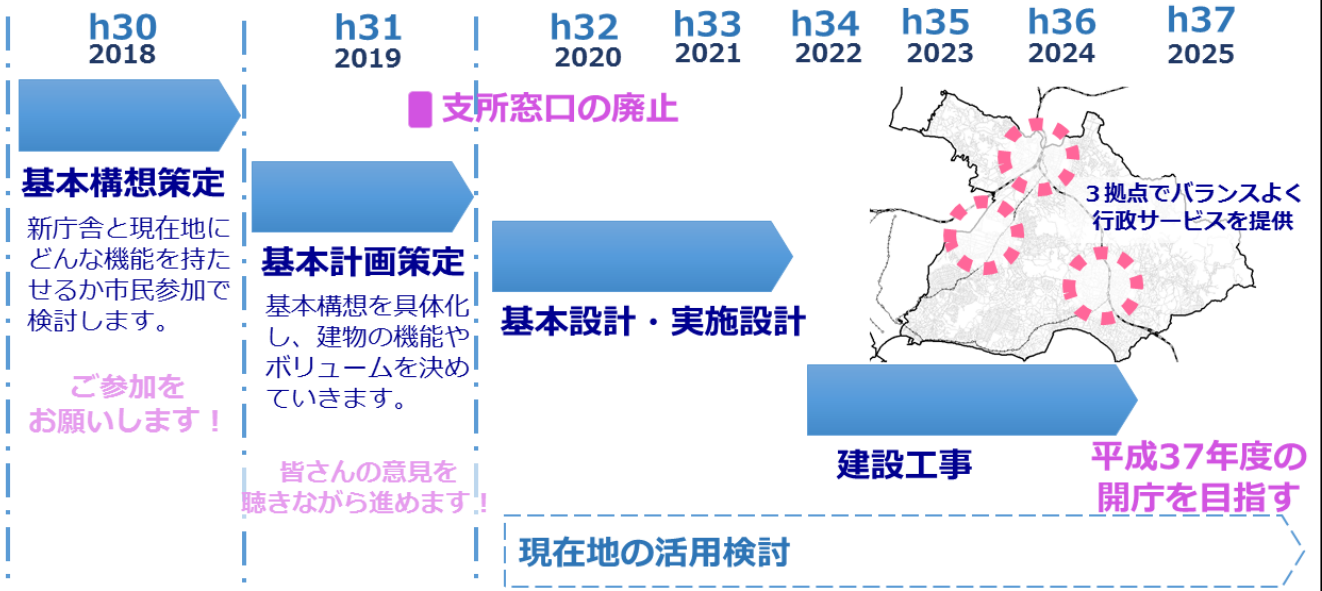
消防本部等との合築により
防災・健康等の価値創造



13

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

今後のスケジュール



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前での便利な場所
市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



窓口がなくなり不便になるのは困る

現在、本庁舎の1階にある市民サービスのための窓口は、残ります。ICTの活用やコンシェルジュ機能の導入により、利便性の向上に配慮します。

災害時にどうすればよいのか

これまで同様、災害時の支援機能は維持します（この場所に、職員も残ります。）。また、津波避難ビルとしての機能を持たせます。

「民間活力」といって商業施設になっては困る

まずは、周辺の公共施設（学習センター・図書館など）を集約し、市民が集える場所とします。さらに多機能を導入し、市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくります。今後、皆さんとともに考えていきます。

例えば…このような場所(シリウス：大和)をイメージしています



大和市文化創造拠点シリウス
(大和駅から徒歩3分の場所にあります)

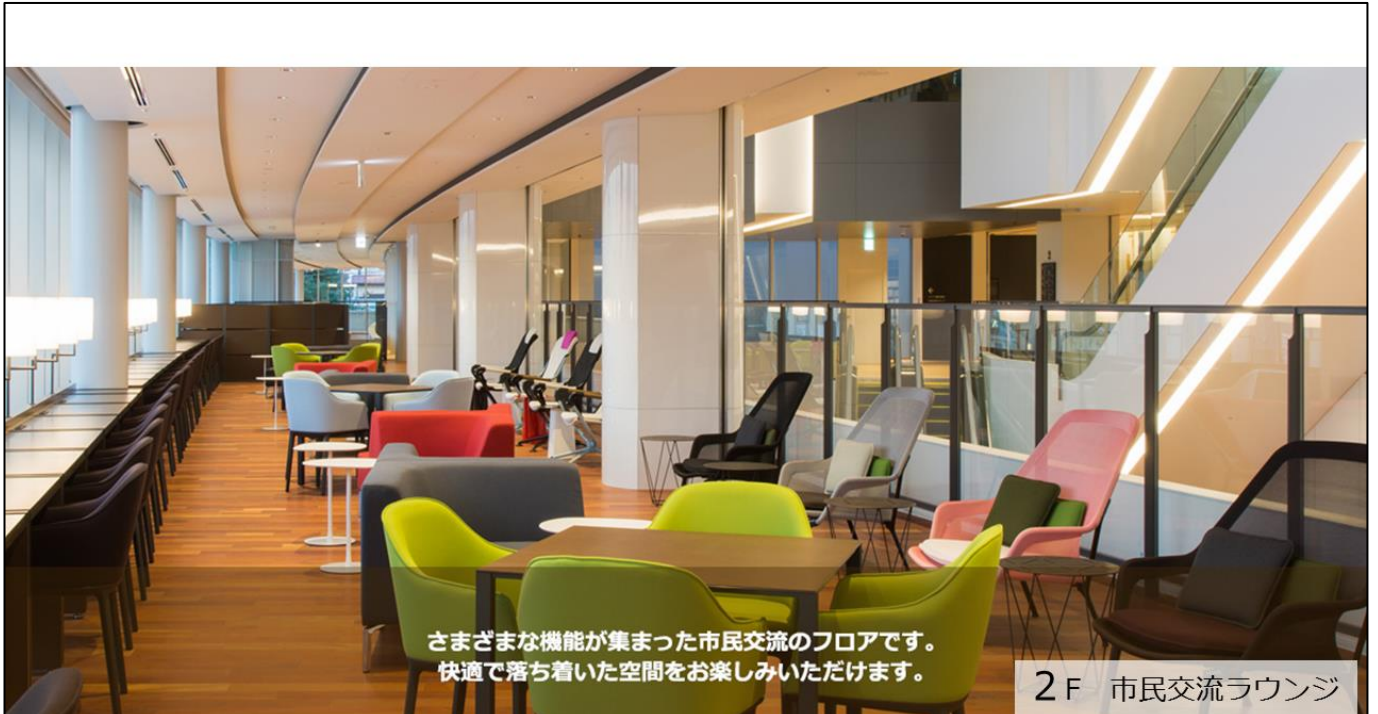


1F エントランス
1F~5Fの各フロアに図書館があります



2つのホールとギャラリーを備えるフロアです。トップアーティストによる公演や展覧会など、身近に芸術文化に触れる機会を提供します。また、市民のみなさまの手による文化活動の発表の場としてもご利用いただけます。

メインホール。1Fには、サブホールやギャラリーもあります。



さまざまな機能が集まった市民交流のフロアです。
快適で落ち着いた空間をお楽しみいただけます。

2F 市民交流ラウンジ

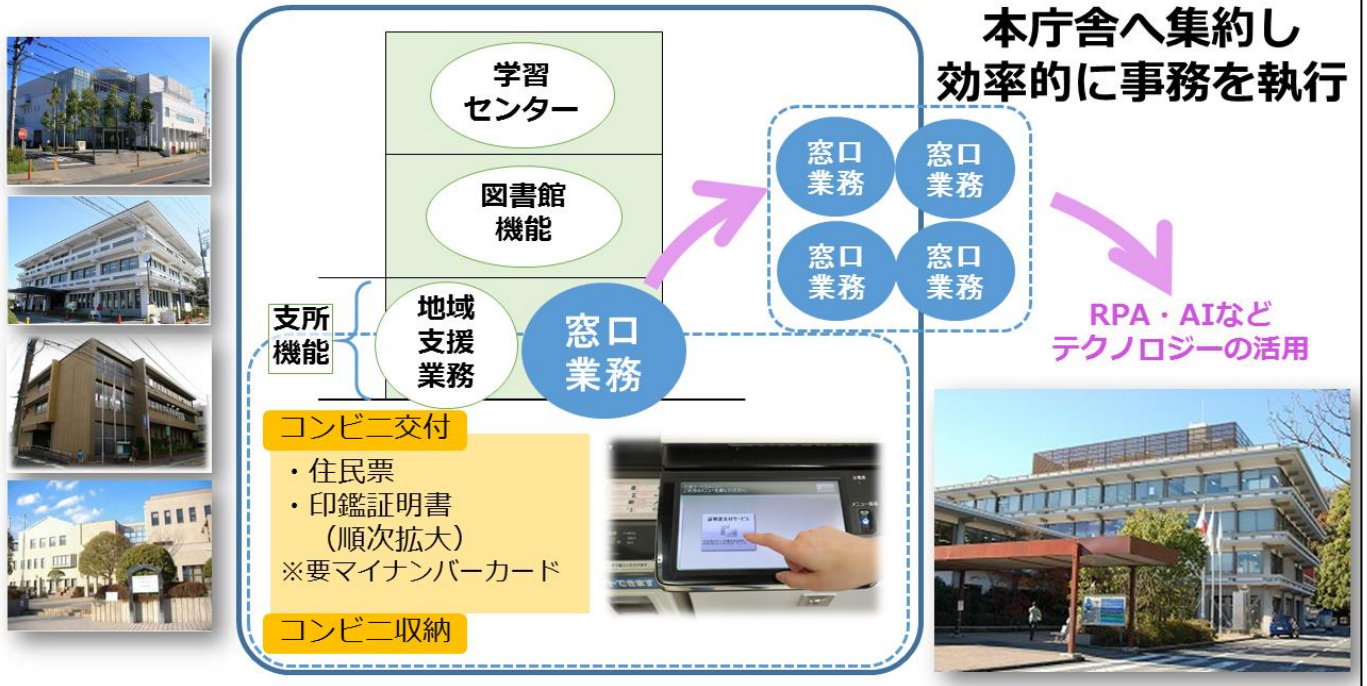




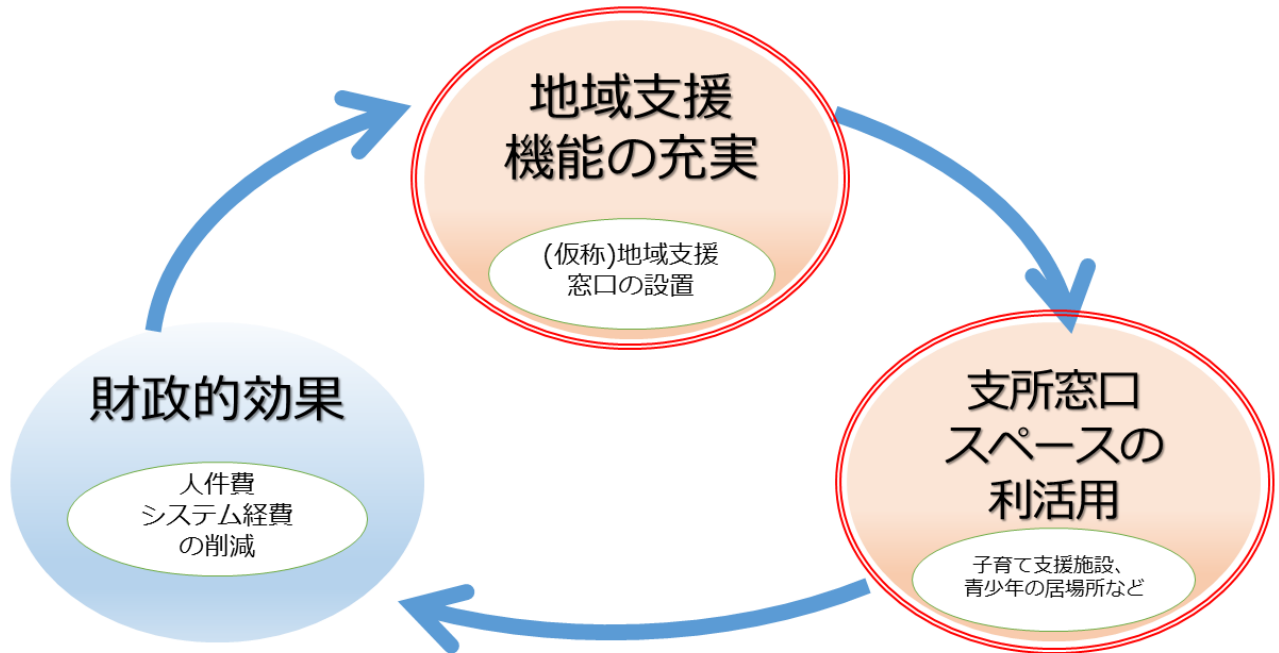


6 Fには、市民交流スペースがあります

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編計画）



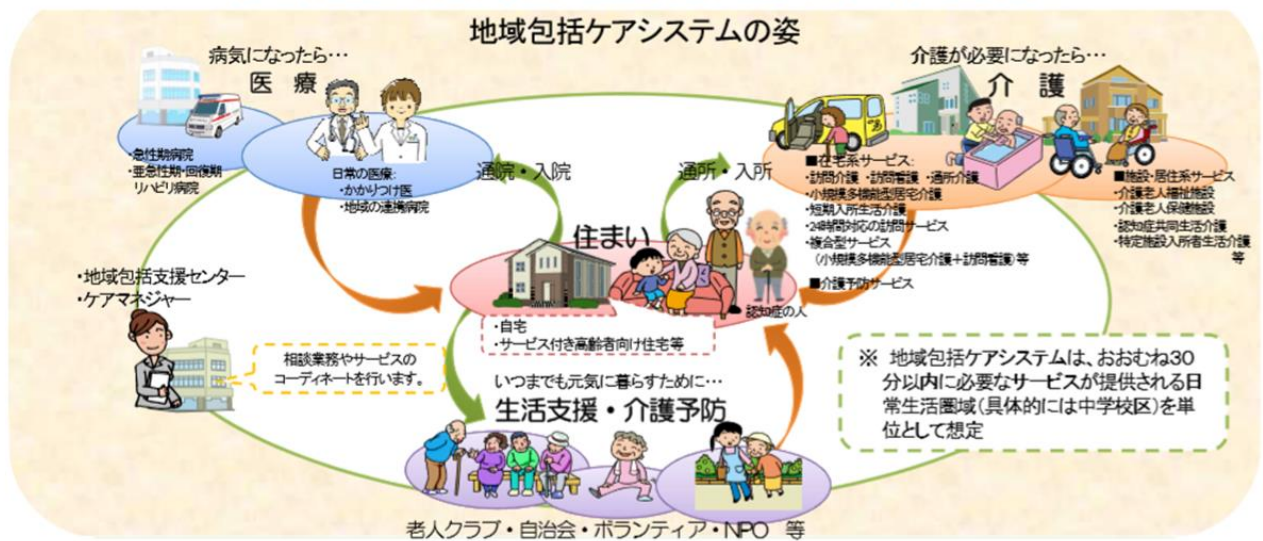
鎌倉市政の抱える課題（支所業務のあり方）



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるまち』をつくる

地域で医療・介護・予防・生活支援・住まいを一体的に提供



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

産学官民の連携により「地域で地域の課題」を解決する、まちをマネジメントしていく仕組みをつくる

鎌倉リビングラボの全市展開



鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

現状：鎌倉の観光拠点である鎌倉地域は、休日を中心に著しい交通渋滞が発生

これまでの取組

- 鎌倉市交通計画研究会(平成8年度設置)
 - ・市民、学識経験者、交通事業者、関係行政機関等で構成し、地域の交通問題の改善に係る20の施策を提案し、実施可能なものから順次実施
- パークアンドライド(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域周辺の所定駐車場(4箇所)で公共交通機関(江ノ電、シャトルバスなど)への乗り換えを実施(利用促進策として協賛店での料金の割引やサービスを実施)
- 鎌倉フリー環境手形(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域の主要観光地をカバーする5路線のバスと江ノ電の鎌倉駅～長谷駅間が1日乗降自由になる切符を販売(利用促進策として協賛店や神社等で割引等を実施)

⇒ 抜本的な交通渋滞の解消は出来ていない



課金により流入交通量をコントロールする**ロードプライシング**を検討

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

・課金の方向性

課金の方向性について、特別委員会では、次のとおり、基本的な事項をとりまとめました。

項目	内容
①対象エリア	国道134号を除く鎌倉地域とする。
②対象日	全ての土日祝日等(年間120日程度)とする。
③課金時間	8時から16時までを基本とする。
④課金単位	1回ごとに課金(課金箇所に流入1回につき課金)する。
⑤課金対象	鎌倉地域に流入する全ての自動車、二輪車とする。 (緊急車両、福祉車両、障がい者等の車両、路線バス、タクシー、宅配車両、市内に事業所や店舗等がある業務車両は除く。)
⑥課金パターン	市外からの流入車両を1とした場合、市民の負担割合は0~0.1程度とする
⑦課金の使途	システムの運営・管理費、公共交通への転換方策等に充てる

これらの条件を基に法制度面等と併せて、検討を進めています。

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

今後の予定

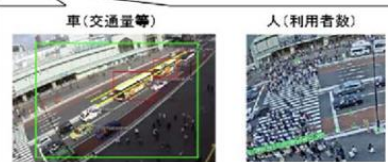
- ・「第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画後期実施計画（H29~H31）」に基づき、自動車利用の抑制策等を踏まえた交通シミュレーションを実施し、平成31年度に本市で「(仮称)鎌倉ロードプライシング」の社会実験を実施する予定です。
- ・平成29年9月に国土交通省の「観光交通イノベーション地域」に鎌倉市が選定されました。現在、ICT、AI等の技術を活用し、エリアプライシングを含むエリア観光渋滞対策のためのデータを収集しています。

(仮称) 鎌倉ロードプライシングの概要とシステムイメージ



AIカメラ

AIによる画像処理で交通量調査、自動車起終点調査をIT化



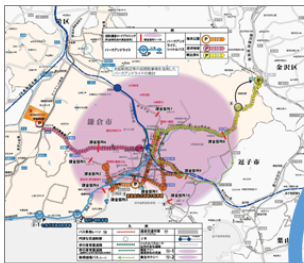
ETC2.0による通信



ETC2.0車載器と路側機との通信により、プローブ情報(位置、速度、急ブレーキ、経路等)を収集

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

課金による渋滞解消
課金による財源確保



環境保全

通過交通の排除・渋滞解消により
CO2削減

ロードプライシングの実施コストの他

魅力的な空間創出（歩道・ポケットパーク・サイクリングロードなど）

舗装や交差点改良・交通案内の充実（ICTの活用など）

鎌倉の歴史・文化遺産の継承・活用

まち並みの美観向上・緑化促進

市民・来訪者（負担者）ともに快適なまちへ

歩いて楽しいまち
コミュニティの向上
消費拡大・地域産業の活性化

地域活性化

公共交通による移動快適
緊急自動車等のスムーズな運行

安全・安心

鎌倉市政の抱える課題（健康づくり）

市民の健康づくり活動を支援し、
生活習慣の改善や健康寿命の延伸
を図る

- 健康づくりに取り組むことでポイントが貯まり、貯まったポイントで景品が当たる抽選に応募できるサービスを提供し、市民の健康づくりを応援
- 健診結果等の見える化を図ることで生活習慣の改善及び健康寿命の延伸を図る
- 市内企業等と連携した健康経営の推進

第1部 市長からの説明に対する意見・質疑

質疑応答なし

第2部 地域の懸案事項に関する報告 【西鎌倉地域】

平成30年度 ふれあい地域懇談会

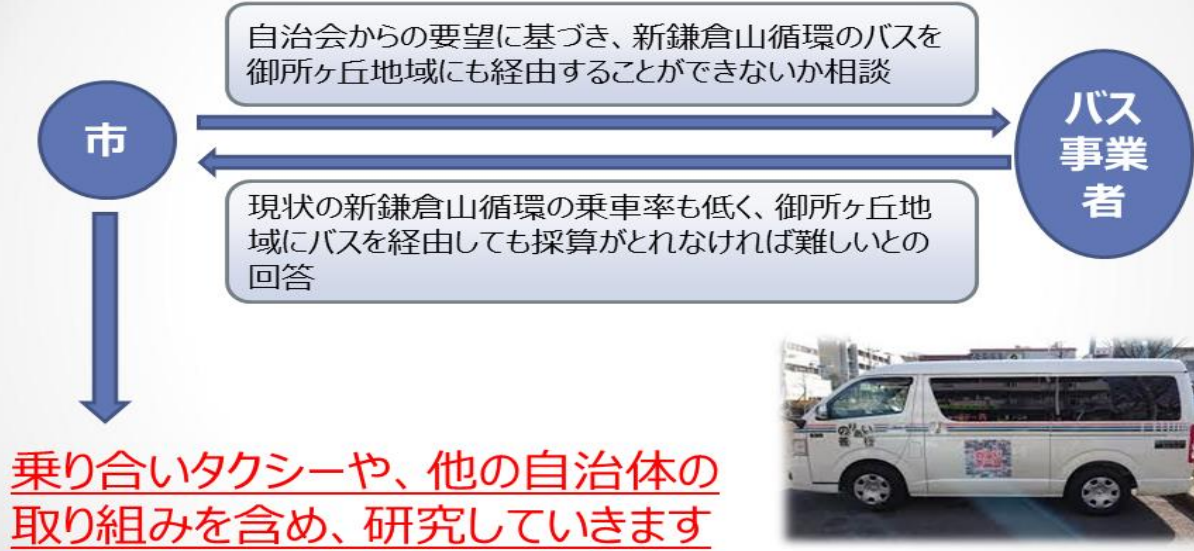


西鎌倉地域

- 地域バスについて
- 交通渋滞の解消について

地域バスについて

【共創計画部 交通政策課】



藤沢市で運行されている乗り合いタクシー（地域主体のNPO法人が運営）

交通渋滞の解消について

【共創計画部 交通政策課】

昨年度のふれあい地域懇談会を受け、時差式信号への変更を鎌倉警察署交通課に伝え、警察において現地を確認

鎌倉警察署交通課からは、「現示を変更することで県道腰越大船線の渋滞が激しくなることが懸念されるため、時差式信号は困難」との回答がありました

引き続き地元の要望を伝えていきます



第2部 「地域の懸案事項に関する報告」に対する意見・質疑

地域バスについて

<新鎌倉山自治会 肥後会長>

バスの件は採算が取れないのは承知している。今後も協議を継続するのであれば、土日や夜7時台に一本だけでも運行するよう検討をお願いしたい。

<松尾市長>

承知した。既存の拡充を要望していく。

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

バスの件で地域アセスメントを実施したところ、バスのニーズが高いことが確認できた。

少ないと1時間に1本しか走っていない所もある。西鎌倉地区は高齢化率が40%を超えている所もある。車の免許を返上したいと思ってもどこかに出るには坂を上り下りしなければならず、車が手放せない。そのことを踏まえて検討いただきたい。

現在、地区社協でも調査中なので、結果をまとめ提案させていただきたい。

<西鎌倉山親寿会・池田氏>

いわゆるトンネル住宅（猫池）では、以前からバスを通してほしいとの要望がある。採算性が取れるかどうか重要なのは分かっている。どの程度の利用があれば採算が取れるのか話を聞きたいと思っている。

<松尾市長>

どの程度の利用があれば採算が取れるのか、また地域のニーズはどうか、担当部署を窓口協議をさせていただきたい。

第3部

本年度の地域の議題に関する懇談

西鎌倉－H30－1	平成32年度以降の腰越行政センターの利用について
西鎌倉－H30－2	高齢化する西鎌倉での交通手段について
西鎌倉－H30－3	地域防犯について
西鎌倉－H30－4	危険地域
西鎌倉－H30－5	喫煙の禁止条例について
西鎌倉－H30－6	街づくりについて

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	西鎌倉－H30－1
テ ー マ	平成 32 年以降の腰越行政センターの利用について
内 容 詳 細	<p>平成 31 年 12 月、腰越行政センターの業務が終了すると伺っています。行政センター終了後の建物の使い方（利用方法）について、市として方針を伺いたいと思います。</p> <p>地域の住民として、様々な活動に利用できるようになることを願いますが、意見を述べる機会はあるのでしょうか。</p>
担 当 部 課	行政経営部 公的不動産活用課

議題に対する回答等

まず、腰越行政センターは、市の支所、地域図書館、学習センターとして、それぞれの機能を複合させているものであり、平成 31 年 12 月で終了するのは支所窓口機能だということを御理解願います。その上で、腰越支所窓口機能廃止後の跡地の利活用については、地域支援機能としての活用等、地域住民の声も聴きながら、民間事業者との連携などと併せて検討してまいります。

また、当該跡地利用に関しての意見交換の場の有無については、今後開催を予定している住民説明会の中で設けてまいります。

添付資料

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

平成 31 年 12 月に支所窓口が閉鎖になった後、1 階の多目的室の利用の申し込みはどこにすればよいのか。地区社協はそれぞれの行政センターを拠点にしているが、西鎌倉地区社協は、拠点がなく、事務所は会長である私の自宅になっている。行政センターがなくなった後のスペースを拠点として貸してもらいたい。また、そのような意見を具体的に出せる機会がほしい。

<行政経営部・齋藤部長>

地域支援機能は残したいと考えている。また、行政センターのスペース貸し等はやっていきたい。地区社協支援機能、地域支援機能をどのようにしていくのか、皆さまの意見を伺いながら、詰めていきたい。

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

具体的にいつどのような話し合いが持たれるのかを聞きたい。

<行政経営部・齋藤部長>

この秋からご意見を伺う機会を作りたい。当初支所の窓口機能廃止は、平成 31 年 12 月を予定していたが、現状は 31 年度中を予定している。

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

市役所移転と関係するのか。

<行政経営部・齋藤部長>

支所窓口の廃止は公共施設再編の一環であり、本庁舎移転もその一環である。

《平成 30 年 12 月現在の状況 行政経営部行政経営課》

支所窓口業務の見直しについては、第 3 次鎌倉市総合計画 第 3 期基本計画 後期実施計画において、平成 31 年度中に実施することとしていましたが、地域支援の業務や支所窓口業務の代替手法について、少し時間をかけて整理していくこととしました。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	西鎌倉－H30－2
テ ー マ	高齢化する西鎌倉地区での交通手段について
内 容 詳 細	<p>西鎌倉地区では平成 28 年から地域アセスメントを実施し、アンケート等によって住民の意向を聴いたところ、交通手段 についての意見も数多く出されました。</p> <p>坂が多く、高齢になり免許証の返納も検討しなければならなくなることを考えると、モノレールだけでは寂しいものがあります。</p> <p>バス停の位置の変更・モノレール終電延長などの要望もありましたが、江ノ電バス・京急バスの相互の利便性、小型バスによる横断的な運行等きめの細かい対応を望む声が多く聴かれました。</p> <p>市内各所で興味ある企画があっても「足がなくて」参加できない元気な高齢者はたくさんいます。市のリーダーシップでぜひ「足」の確保にご協力頂きたいと思えます。</p>
担 当 部 課	共創計画部 交通政策課

議題に対する回答等	
<p>高齢化が進む中で、状況に応じた交通対策が必要になっていることについては、鎌倉市としても認識しているところです。バス利用に関する利便性の向上については、市単独での交通手段の確保が困難であり、バス事業者の協力が必要不可欠ですが、事業の採算性が大きな課題となります。</p> <p>引き続き、地元から要望をいただければバス事業者に伝えるとともに、NPOなどの地域住民等が主体となって運行する交通手段として乗り合いタクシーなどの事例もあることから、他の自治体の取り組みを含め、研究していきたいと考えています。</p>	
添付資料	

<新鎌倉山自治会 肥後会長>

藤沢では、自動運転バスの実証実験が行われている。鎌倉ではできないのか。

<松尾市長>

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の中で実証実験が行われているのは承知している。公道での実験をすぐに行うことは難しいが、深沢のまちづくりの一環で、取り組んでいきたい。自動運転バスは人件費が抑えられるので前向きに検討したい。

<西鎌倉地区町内・自治会連合会 顧問 前垣氏>

市役所移転に伴い、東海道線の新駅についての情報はるか。

<松尾市長>

新駅の話は元々藤沢市議会からの発案が発端であり、東海道線の藤沢・大船間で新設される予定である。本市としては深沢地域整備事業に良い効果があると考えている。新駅の整備には約 160 億円の費用がかかるとされており、鎌倉市・藤沢市・神奈川県・JRでの負担割合を協議中である。

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

深沢地域の道路整備が必要になると考えている。

<松尾市長>

深沢周辺の道路整備や深沢につながるバス便の拡充などは必要になると考えている。

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

アセスメントの調査で、赤羽交差点の江ノ電バスと京急バスの停留所の距離が遠いという意見があった。停留所の位置について市も関わっていただけないか。

<松尾市長>

バス会社への働き掛けを一緒に行っていきたい。

<親寿会・池田氏>

腰越なごやかセンターは利用率こそ高いが、毎日来ている元気な老人が多い。問題は来たくても来られない人であり、そのような人たちの健康寿命を延ばすことが重要である。そのために駐車場の整備やバス便の充実などの解決策を講じてもらいたい。

<松尾市長>

健康な方を増やしていくということでは、フレイル予防の取り組みを進め、外出機会の減っている方などの支援を考えていきたい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	西鎌倉－H30－3
テ ー マ	地域防犯について
内 容 詳 細	<p>新鎌倉山では年明けから詐欺や不審者侵入、不法投棄の案件が連続して発生しています。</p> <p>現在、防犯カメラ 2～3 台を設置して運用していますが、その増設は犯罪抑止力として対策の一つかと思います。</p> <p>しかしながら、予算的には厳しく、市としての補助をお願いできないかと考えています。</p> <p>先般の市のアンケート調査でもご回答させていただきましたので、市としても検討されているかもしれませんが、改めてお願いできないかと思っています。</p>
担 当 部 課	防災安全部 市民安全課

議題に対する回答等	
<p>防犯カメラ補助制度は、新たに設置する防犯カメラに対する設置費の補助について、市と県が負担し、行っているものですが、設置後の維持管理費や防犯カメラの更新に対する補助は、現在行っておりません。</p> <p>防犯カメラに対する補助を実施している県内各市町村においても、設置後の維持管理費についての補助は行っていない状況です。</p> <p>防犯カメラの更新については、横須賀市では設置後 5 年を経過したもの、藤沢市は設置後 6 年を経過したものを補助対象としています。</p> <p>御提案の維持管理費や防犯カメラの更新に対する補助制度については、県や各市の動向を踏まえ、今後研究していきたいと考えます。</p>	
添付資料	

<新鎌倉山自治会 肥後会長>

防犯カメラには抑止効果があり、町内3台程度の増設を考えているが、6年ぐらいで交換が必要であり、増設するとランニングコストもかさんでくる。費用の積み立てはしているが、市の補助をお願いしたい。犯罪の抑止力という点では、ドライブレコーダーの役割についてなど、市も一緒に考えてほしい。

<松尾市長>

引き続き検討していきたい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	西鎌倉－H30－4
テ ー マ	危険地域
内 容 詳 細	赤羽の交差点から鎌倉山ロータリー方面へ坂を少し登った右側にある調整池（猫池）のフェンスが老朽化しており、一部崖側のフェンスは崩れ危険な状態になっている。
担 当 部 課	都市整備部 下水道河川課

議題に対する回答等

老朽化し、崩れかけているフェンス等については、現場の確認等を行った上で、危険と判断した場合は改修等を行っていきます。

添付資料

<都市整備部・樋田部長>

現地を確認した。調整池の外側フェンスが一部破れている部分は、早急に対応したい。

<親寿会・池田氏>

フェンスの内側に雑草・雑木が生えてきて、道路側に伸びている。内側には立ち入れないので、中の管理をお願いしたい。

<松尾市長>

調整池なので周辺の維持管理は行っているが、ご指摘の箇所に関しては対応していく。

<西鎌倉体操教室・齋藤氏>

空き地の雑草は管理の対象外か。

<環境部・石井部長>

繁茂している空き地については、所有者に対して管理を促す通知を毎年 400 件程度行い、半年後ぐらいに再度見回り、改善が見られない場所については再通知を行っている。毎年これを繰り返すことで〇に近づけていこうとしている。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	西鎌倉－H30－5
テ ー マ	喫煙の禁止条例について
内 容 詳 細	<p>喫煙そのものを取り締まっていたきたいわけではありませんが、ある一定の場所での喫煙を禁止する条例を鎌倉市で制定頂けないでしょうか。</p> <p>広町の森で火災が発生すると、広町そのものが消失するばかりか大規模火災に発展する恐れがあります。</p> <p>喫煙禁止の看板の設置は法律上できません。せめて、鎌倉市の条例で一定の場所に関して喫煙の禁止を定める条例が制定されると、保全運動に役立ちます。</p>
担 当 部 課	環境部 環境保全課

議題に対する回答等

市では、鎌倉市路上喫煙の防止に関する条例を制定し、喫煙者に道路、公園、広場その他屋外の公共の場所の路上等での喫煙をしないように努めなければいけないと規定しています。

特に人通りの多く、吸い殻の散乱や歩きたばこによる火傷の危険性が高い、鎌倉駅及び大船駅周辺を路上喫煙禁止区域に指定して喫煙を禁止しています。

市としてもたばこの吸い殻のポイ捨てや歩きたばこによる火傷の防止など、喫煙者へのマナー向上の働きかけを行っています。

ご意見をいただいた「広町」につきましては、公園であり、屋外の公共の場所ですので、来訪者の方々への配慮からも喫煙をしないように努めなければならない場所となります。火災予防など施設管理の観点からも喫煙の可否について検討してまいります。

添付資料

<松尾市長>

鎌倉駅や大船駅などでは喫煙所をなくしていく方向で進めている。今後は喫茶店などの屋内で喫煙をお願いするような取り組みを進めていく。

<西鎌倉地区町内・自治会連合会 顧問 前垣氏>

飲食店内の喫煙に関して、鎌倉市では小規模店舗（分煙スペースがない店舗）は禁煙させるのか。

<環境部・石井部長>

屋内については、県条例で、分煙スペースを作るよう定められている。

市は屋外の喫煙に関して取り組みを進めるが、屋内については県条例を鑑みながら、周知に努めたい。

<西鎌倉地区町内・自治会連合会 顧問 前垣氏>

狭いスペースで喫煙されると辛いのでお願いしたい。

<西鎌倉いきいき体操教室・齋藤氏>

鎌倉は歴史的建築物が多いので、喫煙に関し、厳しい立場でやってほしい。

<新鎌倉山自治会・肥後会長>

自然や文化財があり、それらを守る観点から前向きに考えてほしい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	西鎌倉－H30－6
テ ー マ	街づくりについて
内 容 詳 細	<p>最近の役員の年齢構成を見てみると 40 代 50 代と 75 歳以上の後期高齢者の二極化が進んでおり、本来、活動の中心的役割の期待できる団塊の世代が少ないのがこの地域の特徴。</p> <p>これは 40 年から 45 年前に一斉に家を建てて越してきた世代が一斉に高齢化をしているため、世代の入れ替わりも一斉に起こっているためと推察される。従ってそのような人口構成の特性を加味した街づくりの仕組みが必要。</p> <p>普段共働きで仕事をして、子供も小さい 40 代あるいは 50 代の生活価値観と体の不自由が避けられなくなっている高齢者の生活価値観を如何につなげるか（相互理解と相互支援の仕組みづくり）</p>
担 当 部 課	市民生活部 地域のつながり課

議題に対する回答等

地域がつながる重要性の理解を深めるために、自治会・町内会の課題等についてのワークショップ「自治・町内会課題解決のための交流会」を開催しました。また、分譲地間で交流会を実施し、今泉台が取り組んでいる分譲地における自立的な地域運営のモデルケースや七里ガ浜の男女比や世代のバランスを考慮した役員構成のルール化など、ノウハウの共有や問題解決に向けた情報交換などの機会の創出に努めています。

このような取り組みのほか、自治会・町内会が運営などで抱えている課題等の解決に向けた助言を行うアドバイザー派遣制度を平成 29 年度から開始しました。また、市民団体との協働事業で自治会・町内会活動について知ってもらうためのハンドブックの作成も進めています。

これらの取り組みや制度などを活用していただくことにより、地域の活性化につなげていきたいと考えています。

添付資料

＜松尾市長＞

難しい課題と考えている。世代間のコミュニケーションだけでなく、地域のつながりが希薄になっている中で、祭りやイベントなどを切り口にした地域の人が集まって、顔を合わせる仕組み作りが大事になってくる。

地域包括ケアなど福祉面で地域を支える仕組みを強化していくが、それも簡単にできるものではない。地域で何が課題になっているのかをともに話し合い、行政と市民の役割分担を含めて考えていきたい。話し合いの場づくりなどのサポートもしていきたい。

＜新鎌倉山自治会・肥後会長＞

地域の包括ケアセミナーに参加したが、そこではさまざまな先進的な事例が発表されており、そのような事例を取り入れる必要を感じた。

住民主体で進めていくべきものと考えているが、どのように理解してもらうかが重要で、アプローチには、専門家や経験者の情報や、経験をシェアできるような仕組みづくりが必要である。

市の役割はきっかけづくりやそのような集まりができるような場づくりであると思う。

＜西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏＞

まちづくりについては横浜国大が入っている今泉を参考にさせてもらうことがある。西鎌倉は同時期に同世代が入ってきた特殊な地域で、現在ほとんどがサラリーマンである。この地域には商店街や広い場所がなく、地域で集まろうとしても広い場所がない。学校はあるが、現在の学校は条件が厳しく使用は困難である。地域の集まりのためにも学校の開放を進めてほしい。

今泉は元気でお金を持っている高齢者が多いので、買い物にもタクシーを利用する人が多いが、交通手段がないことには変わりはないので問題である。また、空き家が増えている。住みよいまちになるように検討をお願いしたい。

地区社協では、3世代目の子どもたちが帰ってくるまちにしたいと考えている。子どもたちが出て行く理由として、モノレールの終電が早い、お店がないなどの理由が挙げられる。若い世代が帰ってくるまちになれば、独居老人も減るのではないか。

まちづくりと直接関係することではないが、避難所が分からないという意見があった。豪雨災害や津波災害など、災害によって避難所の場所が違うのが住民を混乱させているのではないか。

＜防災安全部・柿崎部長＞

要支援者名簿をお配りしているのには、地域での助け合いを促したい意図がある。各地域において訓練を実施しているが、要望があれば、訓練実施の支援をする。どのような訓練がしたいかなど要望があれば要望に沿った訓練を行うので相談していただきたい。

＜西鎌倉地区町内・自治会連合会 顧問 前垣氏＞

今まで、テーマを決めて地区で訓練をしてきたが、新しい企画があるのか。

<防災安全部・柿崎部長>

一番大事なことは、意識を風化させないこと。繰り返し意識の醸成を図っていく。新たなことというより、繰り返し行うことが大事である。

<西鎌倉地区町内・自治会連合会 顧問 前垣氏>

消火器の使い方、備蓄倉庫に何が入っているか等しかできていない。何かアイデアがあるなら教えてほしい。

<防災安全部・柿崎部長>

例えば、津波 DVD を上映する、土砂災害についての避難路、避難所の確認、垂直避難（二階に逃げる）、水平避難（崖から離れた部屋に逃げる）の講習などが考えられる。他にも、総合防災課にご相談いただければ、地区にあった避難訓練を実施したい。

<西鎌倉山自治会・宮川会長>

要支援者名簿の扱い、自主防災組織の有効な運営方法についての考えはあるか。

<防災安全部・柿崎部長>

名簿の使い方は地域によってさまざまである。災害時に避難者名簿と要支援者名簿を突き合わせると、安否確認にも使える。備蓄品や訓練は自主防災単位で行っている。リーダーの方を年一回集め、防災センターの視察などを行っている。まずは、避難訓練の実施と備蓄品の充実をお願いしたい。

<西鎌倉地区教育懇話会・村井氏>

寝たきり老人の方がいるが、避難所にリヤカー、車椅子はあるのか。また、空き家が大変増えている。市で実態調査や有効利用の施策はあるのか。

<防災安全部・柿崎部長>

リヤカーは各避難所に一台ある。自主防災組織独自で車椅子や折りたたみのリヤカーを買っているところもある。

<共創計画部・比留間部長>

空き家の実態調査は全市的に実施しているが、積極的活用までには至っていない。管理がされていなくて危険なものや、ごみがたまって不衛生なものなどの相談には対応している。

先ほど今泉台の話が出たが、今泉台でも、バスが少ない、坂が多くバス停まで行けない、若い人がいなくなっていくなど他の地区同様の問題があった。そこに横浜国大と一緒に東大の先生も参加し、地区のことは行政に頼るのではなく、自分たちで考えていくという方針のもと、地域の方が考えてくれたのがはじまりである。行政は手伝いのみで、地区の方々が動き、空き家の調査も市とは別で住民が行い、学校が補助金を取り、一緒に空き家の活用に取り組んだり、企業が賛同してさまざまな実験なども行ってき

た。最近は子どもの居場所作りなども行っている所以若い人が参加するようになった。企業を巻き込む実験も行っており、このような中でリビングラボなどの好循環が生まれてきている。

<西鎌倉地区社会福祉協議会・千代氏>

窓口はどこか。

<共創計画部・比留間部長>

共創計画部または地域のつながり課になる。

<新鎌倉山自治会・肥後会長>

市民主体でやるべきとは思いますが、きっかけがほしい。

<市民生活部・熊澤次長>

地域のつながり課では、同じような課題を持つ自治・町内会の交流会を実施している。また今年度は、自治会・町内会活動支援のためのハンドブック作成を進めており、情報の提供と交流を進めていく。さらに自治会館等を所有せず、空き家などの民家を借用して会館として活用している自治会・町内会に対しては、その経費を補助する制度もスタートした。今後も地域の取り組みをサポートしてまいりたい。

<保護司・石井氏>

祭りを開催していたり、クリーンステーションがきれいなところは犯罪が少ない。日常的な人のつながりが防犯に役立っている。

交通手段の確保について、免許証の返上の際に証明書を発行して、証明書の提示によりタクシーやスーパーでの買い物が割引されるなどの制度は鎌倉市にはあるのか。

<防災安全部・柿崎部長>

現状では鎌倉市独自の制度はないが、神奈川県では外郭団体も含めてやっているとは聞いているので、そのあたりは考えていきたいと思っている。

<西鎌倉地区教育懇話会・村井氏>

スズキヤで、5%引きになる。

<防災安全部・柿崎部長>

特典ありきでは本末転倒なので、本来の目的を理解いただき、検討する。

<親寿会・佐々木氏>

親戚が被災地の倉敷市真備町にいて、被害状況などの話を聞いた。真備は半分以上が浸水し、お互い助け合う余裕がない状況と聞いている。普段から助け合える空気を作っていく自治会運営が必要であると

感じた。

<西鎌倉地区町内・自治連合会 野間会長>

いろいろ話を聞いていく中で大事だなと思ったのは、地域のリーダーが全ての起点になると思っていて、そういう人がなかなか不足しているのかなと思う。市が地域から専門職のようなリーダーを募って2年や3年ぐらい特別に雇用し、その方を中心として地域のつながりや防災などの課題に取り組んでいくような試みをする、動きやすさや市との連携が良くなるのではないかと個人的に思った。参考になればと思う。地域をまとめる人材を作るのはいかがか。

付 録

当日配布資料

- 1 地区別危険箇所マップ
- 2 市政e-モニター登録のご案内
- 3 鎌倉市ふるさと寄附金